

北京四合院住宅の空間展示に関する研究

—建築空間と生活文化の展示手法

The research on exhibition space of Beijing SiHeYuan

-Methods of architectural space and living culture

万子龍

Wan ZiLong

1. 研究の背景と意義

北京市にある四合院住宅(図1)は10世紀頃に形成され、市街地にのこる代表的歴史的民居である。四合院住宅は、住宅を取り巻く街路の胡同とともに、北京旧城の細胞や血管と呼ばれている。

四合院住宅の規模は清時代に完成され、民国時代、中華人民共和国の時代にまで継承されてきた。しかし、人口増加、社会変遷、高度経済発展などの様々な原因によって減少している。また時代とともに生活様式も変化して四合院住宅特有の生活文化も失われている。

中庭型の形式を持つ四合院住宅は本来家族や親族で居住する住宅であったが、現在は複数の家族が一緒に住む共同住宅のようになっている。また四合院住宅に暮らす市民も限られており、多くの北京市民は本来の四合院住宅の暮らしを知らないようになった。このような状況に対して、昔の四合院住宅の居住文化と習慣を伝えるために、首都博物館では民俗文化をテーマにした「京城旧事・老北京民俗展」が開催された。

2012年6月12日に首都博物館では「北京の胡同四合院」という特別展示が開かれ、四合院住宅と胡同の内容を中心に紹介した。このように四合院住宅についての紹介や伝統的な生活様式を知る機会は提供されているが、まだ見学、学習する機会が十分に提供されているとはいえない。

本研究は北京の四合院住宅の文化的大切さを伝え、現在の北京に住む人々の四合院住宅文化理解を促すための方法について考察したい。



図1 北京の四合院住宅

2. 研究の目的

北京の四合院住宅の生活文化を知らない現代の中国人に対し、その建築的特長や生活風景といった四合院生活文化を伝えていく必要性は高まっている。しかし、四合院住宅のもつ空間の特長と生活文化を関連させた展示はまだ市民に提供されていない。

このような状況を踏まえ、本研究は、北京の四合院住宅の空間的特長と民族的生活文化の理解を促すために、日本及び中国の博物館に展示されている歴史的空間の展示手法の実態及び課題を明らかにし、北京の四合院住宅の生活空間を展示する手法のあり方を考察する。また北京の四合院住宅の展示に必要な要素を抽出し、これに基づいて展示計画案を検討する。

3. 既存研究

北京の四合院住宅を展示する手法に関する研究を行うために、最初に四合院住宅や博物館における歴史空間の展示方法、及び博物館展示動線などに関する文献研究を整理する。

3-1 四合院住宅に関する文献

張安は「1991年～2005年北京四合院相關研究的考察」¹⁾で、1991年から2005年にかけて四合院住宅に関する文献82本を抽出した。

1991年から1995年の間に9編あり、主に「空間構成」

の内容としてまとめられている。1996年から2000年の間に多く研究されたのが「改造方法」である。2001年から2005年に渡って、「改造方法」に関する多くの研究が行われ、「歴史文化面」の研究も一時増加した。近年、新しい視点になり、現代住宅へのヒント、観光、活用、文化的価値に関する研究が次第に多くなってきた。

3-2 歴史的空間の展示に関する研究

2011年に発表された「浅議民俗博物館的展示形式和陳列布展方式的選択—以甘肅天水民俗博物館為例」²の研究は、甘肅天水にある伝統建築群落に民俗展示を行うことを評価している。研究の論点を見ると、歴史的建築空間を保護しながら、民俗文化の展示も望まれるのではないかとあった。

博物館研究2012年第4期の「試論美国博物館展覽中的場景復元」³ではアメリカにある歴史的空間、情景の展示手法がまとめられている。

同年「文博論壇」に載せられた「关于博物館歴史場景復元的几个問題」⁴研究は、歴史的情景の展示にある問題をまとめ、歴史的情景を本来の姿に従って分類している。

以上の研究によれば、歴史的空間の復元に対して価値を認め、より適切な復元展示を行い、歴史的空間は民俗文化と関連させて考えていくことが重要であると分かった。

3-3 博物館体験と学習に関する研究

日本の「アメリカの子供に対する博物館の参加体験展示に関する研究」⁵は、アメリカのボストン博物館の体験コンセプトを取り上げて、体験による記憶と理解を示している。

「琵琶湖博物館と連携した体験学習プログラムの開発と評価」⁶の研究は、琵琶湖博物館にある移築展示での体験の方法と効果をまとめている。

建築学会に発表された「科学系博物館における展示手法と利用者の行動特徴からみた展示の分析」⁷は観覧型、参加型、体験型という分類を行い、それぞれの役割と効果を述べている。

「公立歴史博物館の常設展示の類型とその変遷に関する研究」⁸は、日本公立博物館に観覧動線と展示類型をまとめ、それらを分類して、博物館の設計類型が自由学習となる傾向があることを示している。

中国の「我国歴史博物館体験式展示方式研究」⁹も、体験型によつての効果、人への伝え方、参加性、博物館の娯楽性などを認めている。

以上の研究によれば、自由学習、興味をもたらす展

示手法、特に体験型ということが重視されてきているといえる。

4. 研究方法

本研究はまず中国北京にある四合院住宅に関する博物館と展示について現況を把握する。北京の四合院住宅で展示されている名人故居7ヶ所、中国古代建築博物館にある四合院建住宅建築の展示、そして首都博物館にある常設展示「京城旧事・老北京民俗展」と「2012年特別展示北京の胡同四合院」に現地調査と文献調査を行う。

次いで日本の歴史的空間展示の手法について博物館の展示事例を通して考察を行う。東京都内にある地域歴史博物館29館の歴史的空間展示に対して、空間、道具、活動体験型という3つの視点から観察して、特徴を抽出する。歴史的空間の内部と外部を関連させて展示を行い、規模としても四合院住宅と胡同の参考になると考え、人々の生活文化を幅広く総合的に伝える代表的な博物館深川江戸資料館を中心に分析する。

日本の歴史的空間の展示手法の特徴から、北京の四合院住宅博物館展示を分析し、評価する。最後に北京の四合院住宅に対して、抽出した歴史的空間の展示条件を用いて、四合院住宅の生活文化や建築的特長を説明するための展示計画を検討する。

5. 北京の四合院住宅に関する博物館

北京の四合院住宅の特徴及び北京の博物館の現状を整理し、特に北京の四合院住宅の文化を伝える「郭沫若故居」、「鲁迅故居」、「李大(釗)故居」、「茅盾故居」、「梅蘭芳故居」、「老舍故居」、「齊白石故居」の7ヶ所の名人故居、及び「中国古代建築博物館」、「北京的四合院胡同」特別展示、「京城旧事・老北京民俗展」の博物館展示の現状、内容と手法について調査を行い、分析を行った。



図2 名人故居—齊白石故居

「名人故居」(図 2)は四合院住宅であるが、人物の展示が主で、四合院住宅の文化的内容について解説されていない。四合院住宅の場所に関する四合院生活文化と建築構造の特徴について説明されていないことが明らかになった。また展示物は本物であり、触ったり、動かしたりすることはできなく、触わる体験はできない。また部屋への入室も限られていて、室外から室内を見る形になっている。

「中国古代建築博物館」は、北京の四合院住宅に関する建築構成の内容について展示している(図 3)。

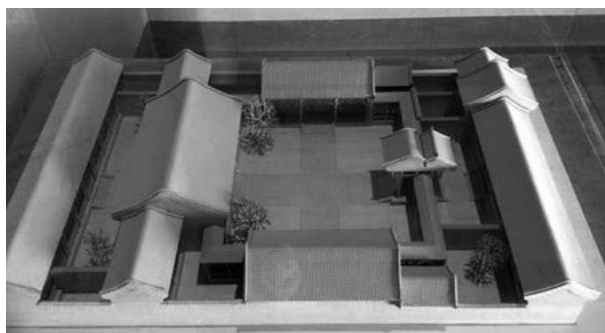


図 3 中国古代建築博物館

「北京的四合院胡同」特別展示は(図 4)、普段に公開されていない保存資料を用いて展示していた。3つのテーマの「胡同」、「四合院」、「人家」に従って、「町並み」、「住宅」、「生活」の内容を伝えていた。展示物はパネル、映像、書類、模型及び実物であった。



図 4「北京的四合院胡同」特別展示

北京首都博物館の常設展示として開催された「京城旧事・老北京民俗展」は(図 5)、清時代の北京民俗に関する展示を行っていた。館内は四合院胡同の雰囲気を出すように設計され、北京の民俗と四合院住宅の関連性を示していた。しかし四合院住宅の建築構造の特徴については解説されていなかった。



図 5 京城旧事・老北京民俗展

6. 歴史的空間の博物館展示と日本の展示手法

6-1 歴史的空間を展示した博物館の展示手法事例一 深川江戸資料館

深川江戸資料館は東京都内にある江戸時代の庶民生活を伝える博物館である。

展示室では、歴史的空間が復元されており、人々の生活文化を幅広く総合的に伝える代表的な博物館である。

歴史的空間の内部と外部を関連させて展示を行い、規模としても四合院住宅と胡同の参考になると考え、本研究では深川江戸資料館を中心に分析する。

資料館は「表通り」、「掘割と広場」、「住宅地」の3つのゾーン空間を設定して(図 6)、当時の佐賀町の様子をデザインされた。空間と生活を結ぶ観点をを用いて道具を空間と関連させながら人と生活の物語性を考えてデザインされている(図 7)。



図 6 深川江戸資料館のゾーン

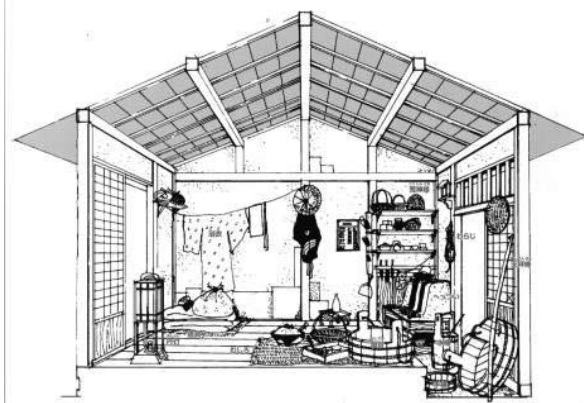


図 7 空間を生活文化の道具と組み立てる設計

利用者の興味に従って、空間と道具の自由体験で学習することができる。

6-2 体験型—空間体験、道具体験、活動体験

歴史的空間の博物館の展示について、空間体験、道具体験、活動体験という体験型展示の観点で展示手法を整理した(表 1)。

先人の生活に近い体験を得るために必要な要素として空間、道具、活動があり、それぞれの体験を調査項目にした。

表 1 東京の地域歴史博物館における体験型の調査

博物館名	東京の地域歴史博物館における体験型の調査		調査項目		
	展示項目	空間体験	道具体験	活動体験	
東京都江戸東京博物館	日本橋	○			
東京都江戸東京博物館	大名の駕籠に乗る		○		
東京都江戸東京博物館	肥桶を担ぐ		○		
東京都江戸東京博物館	江戸の華”に触れ		○		
東京都江戸東京博物館	千両箱を持ち上げ		○		
東京都江戸東京博物館	リントクに乗る		○		
東京都江戸東京博物館	ダルマ自転車に乗る		○		
東京都江戸東京博物館	人力車に乗る		○		
東京都江戸東京博物館	三輪車に乗る		○		
東京都江戸東京博物館	体験コーナー「あこのころの東京の暮らし」	○	○		
東京都江戸東京博物館	日本で最初の電話ボックス	○	○		
足立区立郷土博物館	都営住宅	○	○		
足立区立郷土博物館	子どもホール		○	○	
荒川区立荒川ふるさと文化館	昭和のお住まい	○	○		
大田区立郷土博物館	昔の道具コーナー	○	○		
葛飾区郷土と天文の博物館	昔暮らし復元コーナー	○	○	○	
北区飛鳥山博物館	豊島郡衙の正倉(象徴展示)	○			
北区飛鳥山博物館	将軍御膳所・金輪寺	○			
北区飛鳥山博物館	志茂の「水塚(みづか)」の母屋、物置	○	○		
江東区深川江戸資料館	江戸時代深川町復元	○	○		
新宿歴史博物館	商家のたたずまい	○			
新宿歴史博物館	電車	○			
すみだ郷土文化資料館					
台東区立下町風俗資料館	町復元	○	○	○	
台東区立下町風俗資料館	通りに面した商家	○	○		
台東区立下町風俗資料館	銭湯の番台	○	○		
台東区立下町風俗資料館	玩具コーナー		○	○	
台東区立下町風俗資料館	カフェ屋	○	○	○	
千代田区立四番町歴史民俗資料館					
豊島区立郷土資料館					
八王子市郷土資料館	「車人形体験コーナー」と「はたおり体験コーナー」		○		
バルテノン多摩					
東村山ふるさと歴史館					
東大和市立郷土博物館					
福生市郷土資料室					
文京ふるさと歴史館	土器紋様体験		○		
文京ふるさと歴史館	陶器パズル		○		
文京ふるさと歴史館	長屋	○	○	○	
文京ふるさと歴史館	道具コーナ		○		
港区立港郷土資料館	和室	○	○	○	
港区立港郷土資料館	道具展示		○		
港区立港郷土資料館	考古物		○		
武蔵村山市立歴史民俗資料館					
山崎記念中野区立歴史民俗資料館	旧江古田村の実物の古民家(旧深野邸)	○			
府中市郷土の森博物館	こども歴史街道(陶器体験)		○		
府中市郷土の森博物館	体験ステーション(服装体験、遊び)		○	○	
目黒区めぐろ歴史資料室					
板橋区立郷土資料館	古民家	○	○		
青梅市郷土博物館	古民家	○	○		
くにたち郷土文化館	土器復元パズルゲーム		○		
品川区立品川歴史館	庭園と水琴窟	○	○	○	
杉並区立郷土博物館	古民家(旧篠崎家住宅主屋)	○	○		
世田谷区立郷土資料館	古民家(代官屋敷)	○	○		

空間体験:再現された昔の生活空間に入ることである。例えば、町、建物、交通道路に入ることができる。

道具体験:手で触れ、移動することである。道具の形、重さ、使い方などを体験することが行える。

活動体験:茶道、遊び、食事、細工などのような昔の活動である。道具を使うか使わないかを問わず、ある活動の目的を実現することである。

例えば、道具の茶碗の重さ、形、素材を感じて認識することだけは、道具体験に認める。茶碗を使って茶道を行うことは、道具体験及び活動体験まで数える。つまり単なる道具の体験ではなく、ある活動目的を実現することになっている。

調査対象とした東京の地域博物館 29 館の 44 項目において調査が行われた。調査結果は以下になっている。

体験型	館数	項目数
空間体験	17	25
道具体験	18	38
活動体験	7	9
活動体験+道具体験	7	9

空間体験と道具体験が多く採用された傾向が見えてくることが分かった。活動体験はまだ少なく。

今回の研究は「歴史的空間において建築空間と生活文化の展示手法」なので、空間における体験型に注目しようとする。

東京の地域博物館 29 館のうち 17 館 25 ヶ所で空間体験が取り込まれている。25 ヶ所の空間体験のうち、19 館では道具体験が行われ、約 3/4 に該当する。東京の地域歴史博物館では、空間に体験させる同時に道具の体験も重視されていることがわかった。空間である活動を行うことが考えられるが、全般的に見ると応用することがすくない。人件、費用、安全など考えられる要因のため、現在東京の地域歴史博物館において見ると、住宅の空間で子供の遊びを体験させることに集中している。

ある空間で道具を使って、適切な活動を行うような考え方をういて、先人の生活に近づける体験を見てみると、活動体験との結果はほぼ同じように子供の遊びに集中されている。

空間と道具を同時に体験させる形式が多く採用されているが、活動体験が要因のため、総合的な活動体験はまだ限定的である。

6-3 日本の歴史的空間に求められる展示手法の条件

空間体験、道具体験、活動体験という体験型展示の観点で展示手法を整理した。また「深川江戸資料館」の展示手法を具体的に取り上げ分析した。この分析の結

果、日本の歴史的空間に認められる展示手法の条件として「空間と生活文化の関連」、「空間範囲の関連」、「建築技術の説明」、「空間に関連した道具の体験」、「空間に関連した活動の体験」、「自由学習と解説の導入」の 6 つの条件が抽出された。

7. 四合院住宅の文化的評価と展示案

7-1 対照評価

日本の歴史的空間に対する展示手法の 6 つの条件を用いて、北京の四合院住宅の文化を伝える博物館展示と対照した(表 2)。

	評価条件	①	②	③	④	⑤	⑥
名人故居	郭沫若故居	X	X	X	X	X	O/X
	鲁迅故居	X	X	X	X	X	O/X
	李大钊故居	O	X	X	X	X	O/X
	茅盾故居	X	X	X	X	X	O/X
	梅兰芳故居	X	X	X	X	X	O/X
	老舍故居	X	X	X	X	X	O/X
	齐白石故居	O	X	X	X	X	O/X
	北京の胡同四合院特別展示	X	O	O	X	X	X/X
常設博物館展示	京城旧事-老北京民俗展	X	O	X	X	X	O/O
	中国古代建築博物館	X	X	O	X	X	X/X

表 2 北京四合院住宅に関する博物館の評価

注:Xは該当なし、Oは該当。

- ① 空間と生活文化の関連
- ② 空間範囲の関連
- ③ 建築技術の説明
- ④ 空間に関連した道具の体験
- ⑤ 空間に関連した活動の体験
- ⑥ 自由学習と解説の導入

「観覧の自由動線」と「ガイドの導入」で評価する。「X/X」の形で表示する。

7-2 展示要素

これによって北京で四合院住宅について展示している名人故居と博物館における展示例において、生活文

化と必要な展示要素が明らかになった。

この展示条件に基づいて、北京の四合院住宅の生活文化に必要な要素を抽出し、整理した。「①空間と生活文化の関連」に基づいて、四合院住宅の空間とそこに関連する生活文化をまとめた。「②空間範囲の関連」に従い、四合院住宅とともに胡同の内容と一緒にまとめた。「③建築技術の説明」に対して、四合院住宅空間の科学「因地制宜」と四合院空間にある中華思想—儒学、道教、風水について述べた。「④空間に関連した道具の体験」のために、家具文化について述べた。「⑤空間に関連した活動の体験」のために、「庁」に見られる礼、中庭における活動、空間で楽しむ食事、胡同にある風物の内容をまとめた。

以上の①～⑤の要素を展示する際に、⑥自由学習と解説の導入が必要と考えられる。

7-3 展示案

明らかになった展示条件に従って、北京の四合院住宅で展示できる生活要素を整理し、実際の四合院住宅で展示できる内容について考えてみた(図8、9)。



図 8 四合院住宅と胡同の現地での展示空間
太線は展示範囲

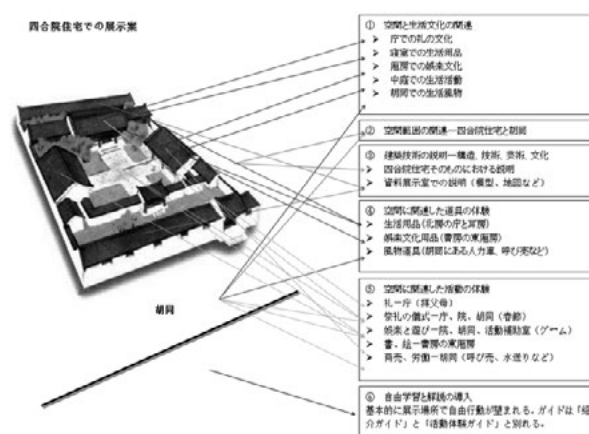


図 9 6つ展示条件に従う展示案

8. 結論

本研究は四合院住宅における生活文化のための展示手法について、具体的な方法を示すことができた。生活や建築の要素を住宅空間と関連させて展示を行う方法を提示できたが、このような方法による展示がどのような学習効果を発揮するかは、まだ確認できていない。今後は利用者の視点から展示物同士の関連や見学の導線についても考察を進めていき、空間展示手法をさらに充実させたものに発展させていく必要があると思われる。

注 参考文献

- 1張安:「風景園林」,第三期,p.85-89,2007年
- 2王炯:「浅議民俗博物館的展示形式和陳列布展方式的選擇—以甘肅天水民俗博物館為例」,博物館研究,第114期,pp.10~15,2011年
- 3劉連香:「試論美国博物館展覽中的場景复原」,博物館研究,第120期,pp.10~15,2012年
- 4陳万豊:「關於博物館歷史場景復元的几个問題」,文博論壇,pp.66~68
- 5「アメリカの子供に対する博物館の参加体験展示に関する研究」,日本建築学会近畿支部研究報告集5002,pp.225~228,1991年
- 6「琵琶湖博物館と連携した体験学習プログラムの開発と評価」,滋賀大学教育学部紀要, No57, pp.177~190,2007年
- 7「科学系博物館における展示手法と利用者の行動特徴からみた展示の分析」,日本建築学会計画系論文集,第593号,pp.57~63,2005年7月
- 8公立歴史博物館の常設展示の類型とその変遷に関する研究,日本建築学会計画系論文集,第76巻,第667号,pp.1745~1751,2011年9月
- 9徐晶:「我国歴史博物館体験式展示方式研究」,南京芸術学院修士論文,2006年5月1日